

研究活動報告 (アルファベット順)

2014年(1月1日から12月31日)における専任教員の研究活動歴である。ここに掲載されているものは、大阪女学院大学・短期大学研究活動委員会の依頼に応じて、各専任教員が自己申請したものに限定されていることを付記する。研究活動歴は以下のように分類される。

氏名, (専門領域), I.著訳書, II.学術論文, III.その他の著作(研究ノート, ニュースレター, 報告書, 雑誌, 新聞等), IV.学会発表, V.その他の発表(シンポジウム, 講演, 放送等), VI.学会および公的な機関の委員, VII.科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

Bramley, David(ブラムリー・デビッド) [eBooks and Tablet Computers for English Language Learning, Communicative Task Based English Language Learning, Materials Development]

I. 著訳書

- (1) Making interactive eBooks: All about widgets. Osaka Jogakuin Press. November 2014. Joint work.

II. 学術論文

- (1) Tablet Computers and eBooks: student feedback. Osaka Jogakuin University Research Journal, In Print. Individual work
- (2) Making the change: going from paper to eBooks. Peerspectives, 13, Autumn 2014. Individual work
- (3) Tap into the future: a study of iPads and interactive eBooks in an e-learning project. Osaka JALT Journal, 1, March 2014. Individual work
- (4) Making interactive eBooks: More than just cutting and pasting." Osaka Jogakuin University Research Journal, 10, March 2014. Joint work

IV. 学会発表

- (1) Reactions to iPads & eBooks. A New Look. JALT Tech Day Plus Conference, Otemae University, Itami City, Japan. October 5, 2014, October 2014
- (2) Reacting to iPads & eBooks: One year in. The 39th JALT International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exposition, Kobe, Japan, October 26, 2014. (Joint presentation)
- (3) Reactions to iPads & eBooks. Eurocall International Conference, University of Groningen, Groningen, Netherlands. August 21, 2014, (Joint presentation)
- (4) Using iPads and eBooks For Communicative Interaction. (Trans. E. Kato). High School Teacher seminars, Osaka Jogakuin University, Osaka, Japan. June 17 & 23, 2014.
- (5) Tablet power in the language classroom with iPads. JALT Call Conference. Sugiyama Gakuen University, Nagoya, Japan. June 8, 2014. (Joint presentation)
- (6) eBook development for the language classroom. JALT Call Conference. Sugiyama Gakuen University, Nagoya, Japan. June 7, 2014. (Joint presentation)
- (7) Ready for digital: e-Books & Language learning. JALT Call Conference. Sugiyama Gakuen University, Nagoya, Japan. June 7, 2014. (Joint presentation)
- (8) Creating interactive eBooks using iBooks Author. Invited speakers. Apple Store Shinsaibashi, Osaka, April 6, 2014. (Joint presentation)
- (9) Reactions to iPads & eBooks: Construction of a survey. Temple University Applied Linguistics Colloquium. Temple University Japan, Osaka Center, Osaka, Japan. February 9, 2014. (Joint presentation)

- (10) Making The Change: Going From Paper to eBooks. Paperless: Innovation and technology in education. Kanda University of International Languages February 1, 2014. (Joint presentation)
- (11) Creating textbooks for the tablet: The OJU experience. Invited speaker: Research Institute of International Collaboration and Coexistence (RIICC) Research on Language Learning (RoLL) Seminar, Lecture Series on Tablets in the Classroom, Osaka, Japan, July 3, 2013. (Joint presentation)

Cornwell, Steve (コーンウェル・ステイブ) [English Education and TESOL]

II. 学術論文

- (1) Language Teachers as Language Learners (with Eiko Kato), Osaka Jogakuin Daigaku Kiyo, 43, March 2014, joint work

IV. 学会発表

- (1) Answerless Riddles: Stories from Language Learning Classrooms, IAFOR PLENARY, Osaka, April 18, 2014
- (2) Ready for Digital: e-Books & Language Learning, JALTCALL, Nagoya, June 7, 2014
- (3) OUP-Sponsored Roundtable Discussion on Digital Technology in the Classroom, JALTCALL, Nagoya, June 8, 2014
- (4) Mirror, mirror on the wall, how can my school survive in the future?, 2014 Symposium on English Education and Studies PLENARY, Wenzao Ursuline University of Languages, Kaohsiung, Taiwan, June 13, 2014
- (5) Cultural Explanation Strategies and More, BELTA, Dhaka & Mymensingh, Bangladesh, Sept 17 to 20, 2014
- (6) Five Minute Activities for Motivation BELTA, Dhaka & Mymensingh, Bangladesh, Sept 17 to 20, 2014
- (7) Answerless Riddles: Stories from Language Learning Classrooms, BELTA, Dhaka & Mymensingh, Bangladesh, Sept 17 to 20, 2014

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) JALT, Board of Directors, Director of Program, continuing from last year-1/1/2012 through 12/31/2012 and into present
- (2) IAFOR (International Academic Forum), Advisory Board, Local Conference Chair, continuing from last year-1/1/2014 through 12/31/2014 and into present
- (3) Jalt Journal, Editorial Advisory Board member, continuing from last year-1/1/2014 through 12/31/2014 and into present
- (4) The Language Teacher, Editorial Advisory Board member, continuing from last year-1/1/2014 through 12/31/2014 and into present

夫 明美(ふ・あけみ) [第二言語習得]

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 書評「私も移動する子どもだった」 大阪女学院短期大学紀要 43号, 2014年1月, 単著

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 国立国語研究所基本動詞ハンドブック作成委員 2013年10月-

Johnston, Scott (ジョンストン・スコット) [Internationalization of campuses and courses]

IV. 学会発表

- (1) "Semester Abroad: Before, Moodle and After." Task-Based Learning Special Interest Group in Asia

香川 孝三(かがわ・こうぞう)〔労働法・アジア法〕

II. 学術論文

- (1) 「海外進出企業における労働組合の役割」産労総合研究所編『2014年版賃金・労働条件総覧』経営学院, 2014年1月, 365-368頁
- (2) 「インドの労使紛争処理手続」アジア法研究7号, 2014年2月, 159-172頁
- (3) 「How has Japan been contributing promotion of creating freedom of association and collective bargaining in Asian countries?」大阪女学院大学紀要10号, 2014年3月, 101-116頁
- (4) 「ミャンマーの労働争議解決法の意義」季刊労働法244号, 2014年3月, 150-161頁
- (5) 「ベトナムの最低賃金制度」季刊労働法245号, 2014年6月, 235-247頁
- (6) 「フランスの少子化対策のための労働政策」富士谷あつ子・伊藤公雄編『フランスに学ぶ男女共同子育てと少子化抑制政策』明石書店, 2014年7月, 106-119頁

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 判例評釈「外国人研修生・技能実習生の労働者性と第一次受入機関の不法行為責任—福島地裁白河支部平成24年2月24日判決」ジュリスト1462号, 2014年1月, 120-123頁
- (2) Case Comment 「Hyogo Prefecture Labour Relations Commission and Sumitomo Rubber Co. v. Hyogo Labour Union, Supreme Court (First Petty Bench) 10 November 2011」International Labour Law Reports, vol. 32, pp. 175-180
- (3) エッセイ「東大と京大」京都生涯教育研究所編『知となごみのまち—京都東山の文化遺産活用事業報告書』2014年3月, 80頁
- (4) 講演録「アジア諸国の労使紛争の現状と問題点」国際労働財団編『アジア雇用労働レポート』2014年3月, 113-119頁
- (5) 巻頭言「東南アジア諸国の最低賃金制度」労働法律旬報1814号, 2014年4月, 4-5頁
- (6) エッセイ「久保先生のご逝去を悼む」久保敬二先生追悼随筆集, 2014年6月
- (7) 解説「目標を文章にできない—自己認知と言語化のスキル」LDノート1175号, 2014年7月, 16-17ページ
- (8) 書評「進藤久美子著・市川房枝と大東亜戦争」日本ジェンダー研究17号, 2014年8月, 97-99頁
- (9) 判例評釈「組合役員の職務懈怠等を理由とする解雇の効力」ジュリスト1473号, 2014年11月, 107-110頁

IV. 学会発表

- (1) 「ベトナムの家族制度と労働の在り方—ジェンダーの視点からみる—」日本ジェンダー学会第18回大会, 京都大学芝蘭会館, 2014年9月20日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 研究報告「クノールプレム商用車システムジャパン事件」東京大学労働判例研究会, 2014年4月11日
- (2) 研究報告「労働分野からみる人間の安全保障」大阪女学院大学国際共生研究所研究会, 2014年7月2日
- (3) 講演「東南アジアの労使紛争」電機連合, 電機連合会館, 2014年9月29日
- (4) 講演「労働契約法」JCMリーダーシップコース, 関西セミナーハウス, 2014年10月14日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本ジェンダー学会 副代表
- (2) 日本労務学会 理事・学術賞審査委員長
- (3) アジア法学会 理事・学術奨励賞審査委員長
- (4) 兵庫県労働運動史編纂委員会 委員長

- (5) JCM労働リーダーシップコース 校長・運営委員会代表委員
- (6) 一般社団法人産業関係研究所 理事・主任研究員
- (7) 国際京都学協会 理事
- (8) 竹文化振興協会 理事
- (9) Asian Society of Labour Law Member of Executive Board

Ⅶ. 科学研究費補助金等の公的研究補助を受けた研究

- (1) 「東アジアにおける労働争議の法的・実態分析」 科研費基盤研究(B) 研究分担者(代表・藤川久昭青山学院大学教授), 平成24年度-26年度

加藤 映子(かとう・えいこ) [言語習得, ITを活用した教育]

I. 著訳書

- (1) 「第5章 英語を専攻する大学生のためのeLearning英語教育」 吉田晴世, 野澤和典編『最新ICTを活用した外国語教育』丸善出版, pp77-90, 2014年3月, 単著

II. 学術論文

- (1) “Language Teachers as Language Learners” 『大阪女学院短期大学紀要』第43号故智原哲郎副学長追悼号, 2014年3月, 共著
- (2) 「建学の精神と自校教育」『私学経営』No. 470, 私の私学考342, 2014年4月, 私学経営研究会, 単著

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「The Very Hungry Caterpillar はらぺこあおむしで読み解く日米教育事情」 高大連携授業, 於: 和歌山県立粉河高校, 2014年1月22日
- (2) 「デジタルネイティブ世代のアクティブラーニング」, 於: アップルストア心斎橋, 2014年3月29日
- (3) 「大阪女学院大学のデジタル教科書」, 於: アップルストア心斎橋, 2014年4月6日
- (4) 「デジタルネイティブ世代の学びのカタチ-大阪女学院大学におけるiPadとアクティブラーニング」 日本私立大学連盟京阪地区学長金曜会5月例会, 2014年5月16日
- (5) 「絵本の読み聞かせを通して-日米教育事情」 夢ナビ講義ライブ, FROMPAGE, 於: インテックス大阪, 2014年6月21日
- (6) 講演「デジタルネイティブ世代の学びのカタチ」 大阪YWCA日本語教師養成講座45周年・日本語教師会25周年記念事業日本語教育セミナー『いまを知る。明日を見る。~社会の中の日本語~』, 於: 大阪YWCA, 2014年8月3日
- (7) 「絵本の読み聞かせを通して-日米教育事情」 夢ナビ講義ライブ, FROMPAGE, 於: インテックス大阪, 2014年6月21日
- (8) 「The Very Hungry Caterpillar はらぺこあおむしで読み解く日米教育事情」 高大連携授業, 於: 和歌山県立橋本高校, 2014年9月5日
- (9) 「国際・外国語」 高校生ガイダンス, 於: 大阪府立八尾翠松高校, 2014年9月17日
- (10) 「大阪女学院大学におけるiPad One to One」 1 in 3 Japan ADE Weekend 2014, 2014年11月15日, 於: 六本木ヒルズ アップルジャパン

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) コンピュータ利用協議会 国際交流委員会委員
- (2) ADE (Apple Distinguished Educator)
- (3) Japan ADE Weekend 2014運営委員

小松 泰信(こまつ・やすのぶ)〔図書館情報学〕

II. 学術論文

- (1) 「導入教育におけるタブレット端末を活用した全学反転授業：事前ビデオ視聴とリアルタイム評価による効果」ICT活用教育方法研究 17 (1), 2014年11月, 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「リアルタイム評価と長期的評価」第20回大学教育研究フォーラム発表論文集, 2014年3月, 共著

IV. 学会発表

- (1) 「リアルタイム評価と長期的評価」京都大学高等教育研究開発推進センター：第20回大学教育研究フォーラム 2014年3月19日
- (2) 「導入教育におけるタブレット端末を活用した全学反転授業：事前ビデオ視聴とリアルタイム評価による効果」私立大学情報教育協会：平成26年度ICT利用による教育改善研究発表会 2014年8月5日
- (3) 「ユビキタス学修支援組織の創設：ICT教室から全空間の学習支援へ」私立大学情報教育協会：平成26年度教育改革ICT戦略大会 2014年9月5日

黒澤 満(くろさわ・みつる)〔国際法, 国際関係論〕

I. 著訳書

- (1) 「国際共生の意義と課題」黒澤満編著『国際共生とは何か－平和で公正な世界へ』東信堂, i-x頁, 2014年2月, 単著
- (2) 『核兵器のない世界へ：理想への現実的アプローチ』東信堂, 209頁, 2014年3月, 単著

II. 学術論文

- (1) “2013 NPT Preparatory Committee and Nuclear Disarmament,” *Journal of Osaka Jogakuin University*, No. 12, March 2014, pp. 81-100, 単著, 査読
- (2) 「核廃絶への人道的アプローチ」『阪大法学』第63巻第3・4号, 2014年11月, 341-360頁, 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「原発・武器輸出 これが成長戦略？」『東京新聞』, 2014年1月10日
- (2) 「軍縮・平和」『imidas e Library (2014年版)』集英社, 2014年2月, 単著
- (3) 「一日一言」『四国新聞』, 2014年4月21日
- (4) 「次のステップ」『秋田さきがけ』, 2014年4月21日
- (5) 「核兵器廃絶への道すじ」, 核戦争に反対する医師の会『核戦争に反対する医師の会2013年活動報告書』, 23-28頁, 2014年6月, 単著
- (6) 「核禁止、法的枠組みで 党合同会議 黒澤満大阪女学院大学教授が講演」『公明新聞』, 2014年7月5日
- (7) 「核軍縮に関する国際情勢(21)：核廃絶への法的取組み」『平和の風』第21号, 8-11頁, 2014年8月, 単著
- (8) 「核抑止脱却を議論 長崎シンポに400人」『朝日新聞』, 2014年8月3日
- (9) 「パネリスト発言「禁止条約テコに迫れ」国際平和シンポジウム2014」『朝日新聞』, 2014年8月9日

IV. 学会発表

- (1) 「核軍縮への人道的アプローチ」, 2014年度日本平和学会研究大会「軍縮・安全保障」分科会, 横浜, 神奈川大学, 2014年6月22日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「軍縮国際法・国際人道法と大量破壊兵器」広島市市民局平和推進部, 核兵器をめぐる世界情勢に関する勉強会, 広島市役所, 2014年1月24日

- (2) 「日本の核軍縮・核不拡散政策」北野外務省軍科部長主催有識者懇談会，東京，外務省，2014年3月13日
- (3) 「核軍縮への人道的アプローチに関する最近の主張」大阪女学院大学国際共生研究所平和・人権研究会，2014年5月7日
- (4) 「日本の核軍縮・核不拡散政策」北野外務省軍科部長主催有識者懇談会，東京，外務省，2014年5月16日
- (5) 「核軍縮の歴史的展開」同志社大学大学院グローバルスタディズ研究科，京都，2014年6月3日
- (6) 「核不拡散の歴史的展開」同志社大学大学院グローバルスタディズ研究科，京都，2014年6月10日
- (7) 「核兵器禁止の法的枠組みを目指して」公明党核廃絶推進委員会，東京，参議院議員会館，2014年7月4日
- (8) 「世界の核兵器の現状と廃絶への取り組み」連合大阪学習会，大阪，エルおおさか，2014年7月18日
- (9) 「核兵器廃絶への道－原点を見つめ、「核の傘」を超える」国際シンポジウム，長崎市・ナガサキ平和推進協会・朝日新聞主催，長崎，2014年8月2日
- (10) “A Comprehensive Approach to Peace and Security in Northeast Asia: An Observation about the Up-dated Agreement,” Workshop on Denuclearization of Northeast Asia and the World, Tokyo, September 15, 2014.
- (11) 「核軍縮」2014年度軍縮・不拡散講座，日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター，東京，2014年9月18日
- (12) 「日本の核軍縮・核不拡散政策」引原外務省軍科部長主催有識者懇談会，東京，外務省，2014年11月12日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本軍縮学会 理事・監事
- (2) 世界法学会 理事・監事
- (3) 日本国際問題研究所 軍縮・不拡散促進センター 客員研究員
- (4) 長崎市平和推進専門会議 委員
- (5) Editorial Board of the Nonproliferation Review Member
- (6) 核戦争防止医師会議 (IPPNW) 大阪支部 特別顧問
- (7) 国立大学法人長崎大学核兵器廃絶研究センター 顧問
- (8) 独立行政法人日本原子力研究開発機構核不拡散科学技術フォーラム 委員
- (9) ひろしまレポート作成事業 委員
- (10) 広島平和記念資料館展示説明文執筆会議 委員
- (11) 朝日新聞国際平和シンポジウム準備委員会 顧問
- (12) 自由都市・堺 平和貢献賞選考委員会 委員
- (13) 日本軍縮学会『軍縮辞典』編纂委員会 委員長

馬淵 仁(まぶち・ひとし) [異文化理解論, 多文化共生論, 教育社会学]

I. 著訳書

- (1) 「教育現場の日常」(青木麻衣子・佐藤博志編著)『オーストラリア・ニュージーランドの教育 グローバル社会を生き抜く力の育成に向けて』東信堂 (pp. 77-88) 2014年1月 単著
- (2) 「多文化社会における教育の葛藤—アメリカ合衆国における政策的課題」(権五定・斎藤文彦編著)『「多文化共生」を問い直す グローバル化時代の可能性と限界』日本経済評論社 (pp. 187-218) 2014年9月

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「書評セッションを終えて」『オセアニア教育研究』 20号 2014年9月 単著

Ⅳ. 学会発表

- (1) 「Global Education in Japan — Problematizing Japanese Intercultural Education」 ISA (国際社会学会) 於: パシフィコ横浜 2014年7月14日

Ⅴ. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「グローバル時代における多文化教育を問う」 オセアニア教育学会・カナダ教育学会合同公開シンポジウム コーディネーター・司会 於: 桜美林大学四谷キャンパス 2014年11月23日

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) オセアニア教育学会 会長(2014年度)
- (2) 異文化間教育学会 理事(2014年度)
- (3) 日本国際文化学会 理事(2014年度)
- (4) オーストラリア学会 理事(2014年度)
- (5) 異文化間教育学会 体系化編集委員(2014年度)

前田 美子(まえだ・みつこ) [比較・国際教育, 開発教育, 国際協力, 理科教育]

Ⅱ. 学術論文

- (1) 「青年海外協力隊に参加した現職教員の意識変容のケースヒストリー」, 『鳴門教育大学学校教育研究紀要』 28号, 75-86頁, 2014年2月, 共著

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「カンボジアにおける教員養成の現状と課題-教員の指導力不足と不正行為の問題を中心に-」, 『教員養成と採用の接続に関する国際比較研究プロジェクト報告書』, 83-91頁, 2014年3月, 単著
- (2) 「第23回大会セッション『教師教育の国際化(Ⅱ)-教師教育の実践と研究方法の課題-』 [2013/09/16]」, 日本教師教育学会第8期(2011.9~2014.9)「教師教育研究の国際化」部会報告書『教師教育の国際化に向けて』, 18-19頁, 2014年9月, 単著

Ⅳ. 学会発表

- (1) “A comparative study of teachers’ insights into effective mathematics lesson”, 22nd Annual Conference of the Southern African Association for Research in Mathematics, Science and Technology Education (SAARMSTE) 2014, Nelson Mandela Metropolitan University, Port Elizabeth, South Africa, January 14th, 2014
- (2) 「青年海外協力隊に参加した現職教員のケースヒストリー」, 異文化間教育学会第35回大会, 於: 同志社女子大学, 2014年6月8日
- (3) 「青年海外協力隊経験による現職教員の意識変容過程-事例の考察-」, 日本比較教育学会第50回大会, 於: 名古屋大学, 2014年7月12日
- (4) 「青年海外協力隊に参加した現職教員の意識変容-中堅教員の事例を中心として-」, 日本教師教育学会24回大会, 於: 玉川大学, 2014年9月28日
- (5) “Inquiry activities in science classes: Better accomplished by the scientific method, or by formulaic performance?”, World Association for Lesson Studies, International Conference 2014, Indonesia University of Education, Bandung, Indonesia, November 26, 2014.
- (6) 「青年海外協力隊での異文化体験による現職教員の意識変容-事例の比較分析-」, 第25回国際開発学会全国大会, 於: 千葉大学, 2014年11月30日
- (7) 「青年海外協力隊に参加した現職教員の異文化感受性レベルに関する分析」, 第39回大阪女学院大学平和・人権研究会, 於: 大阪女学院大学, 2014年12月3日

Ⅴ. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 講師: 「国際関係: 世界の貧困と開発」, 高校内ガイダンス模擬授業, 於: 常翔学園高等学校,

2014年7月14日

- (2) 「そだてる・つむぐ・つながる わた スクールコトンプロジェクト」, 第5回関西合同OV
教員研究会, 於: JICA関西, 2014年8月30日
- (3) Lecturer: "The scientific method" Science Workshop, State Secondary School Lembang,
Bandung, Indonesia, August 20, 2014
- (4) Advisor: Post Lesson Discussion, Lesson Study, SD Gagas Ceria, Bandung, Indonesia, August
21, 2014
- (5) 講師: 「国際文化・国際関係: 頭と身体を使って考える地球規模の問題」, 高校内ガイダンス
模擬授業, 於: 兵庫県立尼崎北高等学校, 2014年12月19日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 鳴門教育大学教員教育国際協力センター共同研究員

VII. 科学研究費補助金等の公的研究補助を受けた研究

- (1) 青年海外協力隊に参加した現職教員の意識変容に関する研究」, 科学研究費補助金 挑戦的
萌芽研究, 研究分担者, 平成24~26年度
- (2) 教育イノベーションとしての「授業研究」の普及に関する事例研究」, 科学研究費補助金 基
盤研究B, 研究分担者, 平成25~26年度

McCarty, Steve (マッカーティ・スティーブ) [Bilingualism, e-Learning, Japan]

II. 学術論文

- (1) 「バイリンガル教育の事例を分析する」, 子ども未来紀行~学際的な研究・レポート・エッセ
イ~, 東京: チャイルドリサーチネット, 2014年2月, 単著
- (2) "Optimize your University for Global Rankings (We could be Heroes)." *Osaka JALT Journal*, 1,
174-177, 2014年3月, 単著
- (3) "Bilingualism for Language Teachers." *Osaka JALT Journal*, 1, 196-199, 2014年3月, 単著
- (4) "Levels of Bilingualism > the Individual Level." Child Research Net: Language Development and
Education, 2014年4月, 単著
- (5) "Family and Societal Levels of Bilingualism." Child Research Net: Language Development and
Education, 2014年4月, 単著
- (6) "School and Academic Levels of Bilingualism." Child Research Net: Language Development and
Education, 2014年4月, 単著

IV. 学会発表

- (1) "How Bilingualism informs Language Teaching." Japan Association for Language Teaching
(JALT) Matsuyama Chapter 30th Anniversary Meeting (全国語学教育学会松山支部30周年記念
例会), 2014年1月12日
- (2) "A Multidimensional Approach to Definitions, Applied to e-Learning in Language Education."
Minpaku Linguistics Circle. 民博言語学サークル, 国立民族学博物館, 2014年7月20日
- (3) "Ubiquitous Language Learning from Mobile Internet to iPod to iPad." International Association
of Applied Linguistics (国際応用言語学会)AILA World Congress. Brisbane, Australia (オース
トラリア), 2014年8月11日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) "Japanese People and Society." 国際協力機構JICA, 関西国際センター(神戸), 2014年9月10日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) World Association for Online Education, President (世界オンライン教育学会, 会長), 1998年
- 2007年, 2012年 - 現在に至る.
- (2) Child Research Net, Advisory Board Member, 2001年 - 現在に至る.

- (3) ベネッセ コーポレーション Worldwide Kids English, メーン監修, 2006年-現在に至る.
- (4) Global School of Professional and Continuing Education (GSPACE) ネット上の経営 (MBA) サポートの顧問, バンガロール, インド.
- (5) 2015年6月のバンガロールで行われる経営・工学におけるオンライン教育に関する学会の International Advisory Council member, 2014年-現在に至る.

宮元 友之(みやもと・ともゆき) [通訳教育学, 通訳学, 応用言語学(英語教授法)]

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「通訳教育研究および教育書の文献案内」『通訳教育論集』2014年3月 共著

Ⅳ. 学会発表

- (1) 「日本語非母語話者への通訳訓練-JETプログラム通訳集合研修の実践例」日本通訳翻訳学会・通訳教育指導法研究プロジェクト研究会 於：東京外国語大学 2014年6月29日

中井 弘一(なかい・ひろかず) [実践英語教育学]

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「なるほど・ザ・英文法：コミュニケーションのための教室英文法再考」、『はくはく』第34号, 2014年3月, 単著, 兵庫県高等学校教育研究会英語部会発行
- (2) 「高等学校“英語表現”の授業に求めたい活動」、『OJU教職活動報告・研究』Vol. 4, 2014年3月

Ⅴ. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「学生の思考力・判断力・表現力を育成するために-ディベート的発想・手法を授業に-」金沢星稜大学2014年度前期FD, 2014年5月14日
- (2) 「学生の思考力・判断力・表現力を育成するために2-ディベート的発想・手法とプレゼンテーションを授業に-」金沢星稜大学2014年度前期FD, 2014年10月8日
- (3) 「英語表現とコミュニケーション活動」奈良県立国際高等学校地区英語教員拡大研修会, 2014年10月16日

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) 関西英語教育学会, 評議員 2012年～

中西 美和(なかにし・みわ) [臨床心理学]

Ⅱ. 学術論文

- (1) 「青年期女性の成長を促進する要因の検討」、『大阪女学院短期大学紀要』43号, 2014年3月1日, 単著
- (2) 「アレキシサイミア傾向者の家族システムと家族内感情体験の特徴について-Family System Testを用いた検討-」、『追手門学院大学心理学部紀要』8号, 2014年3月, 共著

Ⅳ. 学会発表

- (1) 「Tグループを用いたリーダーシップトレーニング-参加学生は何を掴んだか?-」, 日本人間性心理学会第33回大会, 於：南山大学, 開催日2014年10月11日～13日
- (2) 「形見分けからみたイントロジェクション-世代を越えて“受け継ぐ”ということ-」, 日本臨床ゲシュタルト療法学会第5回大会, 於：追手門学院大学大阪城スクエア, 開催日2014年12月20日

Ⅴ. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「聴く力を育てる講座」, 社会福祉法人関西いのちの電話, 於：大阪市立総合生涯学習センター, 2014年11月8日

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本臨床ゲシュタルト療法学会, 常任理事, 2013年～2015年

西井 正弘(にしい・まさひろ)〔国際法〕

II. 学術論文

- (1) 「アフリカ象の資源管理をめぐる抗争と協調」 大阪女学院大学国際共生研究所通信, 第8号, 1-2頁, 2014年10月31日

IV. 学会発表

- (1) 「国連人権理事会 第1回普遍的定期審査 (UPR):トルコ」, (公財)世界人権問題研究センター研究第1部2014年度第5回共同研究会, 於:京都市・世界人権問題研究センター会議室, 2014年9月28日
- (2) 「国連人権理事会普遍的定期審査 (UPR)の実態—トルコの第1回審査を中心に—」, 第38回平和・人権研究会, 於:大阪女学院大学会議室, 2014年10月15日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 環境法政策学会 理事 2003年6月～(現在)
- (2) 世界法学会 理事 1996年5月～(現在)
- (3) Development of International Law in Asia (DILA), Councilor & Vice-Chairperson, 2006-2014
- (4) (公益社団法人)京都勤労者学園顧問 2010年6月～(現在)

奥本 京子(おくもと・きょうこ)〔平和学・紛争転換学・非暴力介入論・平和ワークにおける芸術アプローチ・NGO論・ファシリテーション論・メディアーション論〕

I. 著訳書

- (1) 「Q5. 積極的平和とはなんですか?」, 「Q6. ガルトウングの平和論が平和への権利に深く影響を与えていると聞きましたか?」, (平和への権利国際キャンペーン・日本実行委員会)『いまこそ知りたい平和への権利48のQ&A:戦争のない世界・人間の安全保障を実現するために』合同出版株式会社, (pp. 16-19), 2014年10月30日, 単著
- (2) 「平和ワークにおける『紛争が顕現する演劇』の意義(書評, アウグスト・ボアール『被抑圧者の演劇』, 里見実, 佐伯隆幸, 三橋修訳, 晶文社, 1984年)」, (日本平和学会)『平和を考えるための100冊+α』法律文化社, (pp. 264-265), 2014年1月15日, 単著
- (3) ヨハン・ガルトウング(原著), トランセンド研究会(訳)『ガルトウング紛争解決学入門:コンフリクト・ワークへの招待』, 法律文化社, 2014年9月25日, 共監訳

II. 学術論文

- (1) 「経験から体得する実践と研究への構えについて:2014年度ナルビ夏季平和実践トレーニング報告」, 『トランセンド研究:平和的手段による紛争の転換』第12巻第2号, 2014年12月, 共著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「間違いだらけの言語化劇をめぐる:『積極的平和主義』の矛盾」(巻頭言), トランセンド研究会メールニュース, 2014年1月号, pp. 3-5, 単著
- (2) 「平和ワークにおける芸術アプローチ」, 『くらし学際研究書 紀要7 くらし学際研究書 5年のあゆみ』月例会・講演会の記録2012年, 43-44頁, 2014年3月1日, 単著
- (3) 刘成(原著)「世界における中国の位置づけに関する分析」(翻訳), 日本平和学会ウェブサイト, 日本平和学会 平和フォーラム1 東アジアの平和をつくるために, 2014年3月18日, 単訳
- (4) 「南京との新しい始まり/New Beginning with Nanjing」, 『インクルーシブ社会研究1 日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発:国際セミナー『南京を思い起こす2013』記録とHWH7年の成果』, pp. 53-56, 2014年3月25日, 単著
- (5) 「表現と伝達の平和ワーク:方法としての芸術アプローチ」, 『世界思想』41号, 特集:表現するということ, pp. 29-34, 2014年春, 単著
- (6) 「超越二元論の促進方法:以东北亚为中心」, 『察哈尔快讯 Charhar Newsletter』察哈尔学会

- 2014年(总第45期), 2014年4月25日, pp. 12-13, 单著
- (7) 「平和教育プロジェクト委員会からのお知らせ」, 日本平和学会ニューズレター第21巻第1号, p. 24, 2014年4月25日, 单著
 - (8) 「Northeast Asia Regional Peacebuilding Institute (NARPI) 2014 Summer Training (東北アジア地域平和構築インスティテュート2014年度夏季実践トレーニング)」非暴力平和隊・日本(NPJ) ニューズレター第51号, pp. 10-11, 2014年6月10日, 单著
 - (9) 「南京で東北アジアの平和を準備する:2014年度 東北アジア地域平和構築インスティテュート(NARPI) 報告」, 非暴力平和隊・日本(NPJ) ニューズレター第52号, pp. 16-18, 2014年9月10日, 共著
 - (10) 「平和教育プロジェクト委員会からのお知らせ」, 日本平和学会ニューズレター第21巻第2号, pp. 23-24, 2014年10月25日, 单著
 - (11) 「積極的平和の意味: 平和と幸福を再定義する動態的プロセス」, 『MOKU』特集: 幸福を再定義する—縮小社会に向かって—, 12月号Vol. 273, pp. 14-29, 2014年12月1日, 対談

IV. 学会発表

- (1) 「二元論を超越するファシリテーション手法: 東北亜細亜のために (Method of Facilitation to Transcend Dualism: For North East Asia)」, “戦争、衝突と非暴力化解” 国際学術研究会, 於: 湖南省湘潭市九华经济开发区吉利中路铭鸿大酒店, 2014年4月11日
- (2) “Peace and Conflict Studies: Methods of Facilitation to Transcend Dualism for North East Asia”, The International Conference on Peace Studies in the XXI Century and Mongolia (第1回モンゴルにおける平和学会), 於: Zuvshiltul Hall, Ministry of Foreign Affairs of Mongolia, 2014年10月24日
- (3) 「平和構築実践トレーニングにおけるアートの役割: NARPIやMPIでの経験を通して」, アートミツケア学会 2014年度大会, 於: デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO), 2014年11月16日
- (4) “Challenging Historical and Political Conflict in Asia Using the Arts-based Approach: Opportunities That NARPI and Other Peace Trainings Offer”, Peace as a Global Language 2014 Conference, 於: 神戸学院大学 B208 Room 2, 2014年12月7日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「2013年度ウィルミナ公開講座 対話シリーズ 第1回「共生への対話 現代アートに聴く視る識る」Vol. 1 ヤノベケンジ氏講演後のトークインカフェ」大阪女学院大学, 於: 大阪女学院大学会議室 I, 2014年1月11日
- (2) 「平和学入門としての紛争転換ワークショップ」, 京都造形芸術大学, 於: 京都造形芸術大学春秋座, 2014年1月20日
- (3) 「『平和学』ってご存知? みんながHAPPYになれる秘訣は…?!人に優しくなれる平和学・パートII」, 京都生協 平和活動交流会 ピースアクション2013, 於: 京都テルサ東館2階セミナー室, 2014年1月30日
- (4) 「2013年度ウィルミナ公開講座 対話シリーズ 第1回「共生への対話 現代アートに聴く視る識る」Vol. 2 南畷宏氏講演後のトークインカフェ」大阪女学院大学, 於: 大阪女学院大学会議室 I, 2014年2月8日
- (5) 「Kamal Phuyal氏による参加型村落開発ワークショップ」大阪女学院大学国際交流委員会, 於: 大阪女学院大学2F演習室, 2014年2月17~18日
- (6) “Fukushima and Nuclear Power: an Encounter for Truth”, HJU Global Studies, Peace & Leadership Spring Seminar, 広島女学院大学, 於: 広島市似島臨海少年自然の家, 2014年3月5日
- (7) 「『大学で何を学ぶか』 グローバル社会で生きるための学び」立命館ネクストリーダープログラム, 立命館一貫教育部, 於: 今津サンブリッジホテル, 2014年3月6~7日

- (8) 「3・11以後の『積極的平和』とは何か：東アジアのコンフリクトと脱核のあり方 (What Does “Positive Peace” Mean after 3.11? – East Asian Conflict and Denuclearisation of Japan)」, 大阪女学院大学国際共生研究所, 協力：トランセンド研究会, 於：大阪女学院大学会議室 I, 2014年4月9日
- (9) The module titled “The ASIAs: Japan, China, Korea: toward an East Asian community?”, the course “Advanced Conflict Transformation Around the World” (with Prof. Dr. Johan Galtung), the Transcend Peace University, TRANSCEND International, 於：Skype communication, 2014年5月11日
- (10) “Arts Approaches to Community-Based Peacebuilding”, Mindanao Peacebuilding Institute Summer Training, 於：フィリピン・ミンダナオ・ダヴァオ, 2014年5月19～5月23日
- (11) 平和教育プロジェクト委員会 第1回会議 ワークショップ形式, 日本平和学会, 於：神奈川大学, 2014年6月22日
- (12) 「紛争転換ワークショップ」, 東北芸術工科大学, 於：東北芸術工科大学, 2014年7月8日
- (13) 「アートを用いた平和学：あなたの力で世界を変えよう!」, 大阪女学院大学・短期大学, 於：大阪女学院大学, 2014年7月21日
- (14) 「平和学をまなぶ集い」, たすきがけ事業所, 於：傍房, 2014年7月28日
- (15) “Arts and Stories for Peacebuilding: Presenting Our Histories Justly”, NARPI Summer Training, 於：中国・南京 南京大学, 2014年8月17～21日
- (16) 「アニメを使った平和学：紛争解決ワークショップ」, 兵庫県立西宮北高等学校, 於：兵庫県立西宮北高等学校, 2014年9月17日
- (17) 「平和ワークにおける芸術アプローチ&現在の平和系NGO」, ピースおおさかのリニューアルに府民・市民の声を！シンポジウム実行委員会, 於：ピースおおさか館長室, 2014年9月20日
- (18) 「キリスト教系の教育機関からの報告」, 平和教育の課題と展望に関する円卓会議, (公財)世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会, 於：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス 吉岡記念館3階会議室1, 2014年9月27日
- (19) 「平和学をまなぶ集い 第2回」, たすきがけ事業所, 於：傍房, 2014年9月30日
- (20) 「平和創造のための芸術アプローチ：紛争解決学から学ぶ」 イラン・テヘラン平和博物館関係者・ミュージアム友の会会員対象, 立命館大学国際平和ミュージアム, 於：立命館大学国際平和ミュージアム, 2014年10月2日
- (21) 「キャリアプロフィール」, 神戸女学院大学文学部英文学科, 於：神戸女学院大学EB館, 2014年10月16日
- (22) 「平和な関係性をつくろう！～新しい平和教育のあり方を一緒に模索する～」, 日本平和学会平和教育プロジェクト委員会, 於：鹿児島大学総合教育研究棟102教室, 2014年11月8日
- (23) 「平和を語り合う(その2)：芸術平和学ワークショップ」, 京都造形芸術大学, 於：京都造形芸術大学春秋座, 2014年11月11日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 国際トランセンド 認証トレーナー 2000年11月26日～現在に至る
- (2) 同上 東北アジア地域コンピーナー 2006年～現在に至る
- (3) トランセンド(平和的手段による紛争転換)研究会 副会長 2013年1月～現在に至る
- (4) 同上 平和と芸術委員会委員長 2010年12月～現在に至る
- (5) 同上 地域委員会 NARPIプロジェクト・リーダー 2010年12月～現在に至る
- (6) 非暴力平和隊・日本 理事 2003年1月31日～現在に至る
- (7) 日本平和学会 平和と芸術分科会 副責任者 2012年2月～現在に至る
- (8) 財団法人大阪国際平和センター(ピースおおさか) 企画運営委員(展示専門部会) 2007年4

月1日～現在に至る

- (9) NARPI (Northeast Asia Peace Research Institute) 運営委員会委員長 2014年～現在に至る
- (10) ACTION Asia Leader 2010年11月～現在に至る
- (11) 平和教育アニメーション・プロジェクト 呼びかけ人 2011年～現在に至る
- (12) 日本平和学会 第21期理事 2014年1月～現在に至る
- (13) 同上 第21期平和教育プロジェクト委員会委員長 2014年1月～現在に至る
- (14) 京都造形芸術大学・東北芸術工科大学 共同研究機関「文明哲学研究所」 客員教授 2013年4月～現在に至る
- (15) Peace News Japan 理事 2013年6月～現在に至る
- (16) IPRA, Art and Peace Commission, co-convener 2014年8月～現在に至る
- (17) 神戸家庭裁判所(本庁) 家事調停委員 2014年10月1日～現在に至る
- (18) 大阪女学院大学国際共生研究所(RIICC) プロジェクト3「ファシリテーション・メディアエーション研究」 設立者・代表 2014年10月8日～現在に至る

Ⅵ. 科学研究費補助金等の公的研究補助を受けた研究

- (1) 「人間関係のケア学としての紛争解決学の日本における確率のための基盤研究」 科学研究費基盤研究(C) 平成24～26年

朴 賢淑(パク・ヒヨンス)〔キリスト教学, 東北アジアとキリスト教, 宣教学〕

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「新任教員紹介」『HIGH LIGHTS』, 2014年6月.
- (2) 「大学秋の特別礼拝」『HIGH LIGHTS』, 2014年12月.
- (3) 「国際バカロレア」『大阪女学院教育研究センター』第6号, 2014年12月.

関根 聡(せきね・あきら)〔社会学, 家族社会学, 福祉社会学, ジェンダー論〕

Ⅱ. 学術論文

- (1) 「大学生における性役割プロセスに関する一考察2」, 『吉備国際大学大学院社会学研究科論叢15号』, 2014年3月1日, 単著

Ⅴ. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 姫路市交流振興局人権啓発センター主催「高齢者介護をめぐる家族危機」講師(講演) 姫路市立ネスパルやすとみ(2014年8月22日)

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) 大阪市男女共同参画審議会 会長 2013年8月～2015年8月(委員2009年8月～)
- (2) 八尾市男女共同参画審議会 副会長 2010年9月～2014年11月
- (3) 阪南市男女共同参画推進審議会 副会長 2014年7月～2016年3月
- (4) 高槻市男女共同参画審議会 委員 2001年7月～2015年11月
- (5) 大阪市男女共同参画推進にかかる市民向け啓発・研修事業実施事業者検討会議 座長(2014年4月)
- (6) 阪南市男女共同参画推進条例検討委員会 副委員長 2013年7月～2014年3月

[訂正]

2013年度紀要113頁(誤): 「大学生における性役割プロセスに関する一考察2」

(正): 「女性大学生における性役割意識2」

Swenson, Tamara (スウェンソン・タマラ) [Communication, Media Studies, English Education]

Ⅰ. 著訳書

- (1) *Becoming a peacemaker: Explorations through reading and discussion.* (2014, May). Osaka

- Jogakuin Press. ebook. (Swenson, T., Johnston, S., Bramley, D., & Cornwell, S., Eds.)
- (2) *Ethics, Culture & Values*. (2014, May). Osaka Jogakuin Press. ebook (Johnston, S., Swenson, T. Eds.)
 - (3) *Explorations in Teacher Education*, Volume 22, Issue 1, Editor, JALT TEDsig Press, June 2014
 - (4) *Human Rights: Explorations through reading and discussion*. (2014, September), Osaka Jogakuin Press. ebook. (Swenson, T., Editor, with Tojo, K., Cline, W., Bramley, D., & Fu, A.)
 - (5) *Sustainable futures: Explorations through reading and discussion*. (2014, September), Osaka Jogakuin Press. ebook. (Swenson, T., Editor, with Bramley, D., Cornwell, S., Cline, W., & Johnston, S.)
 - (6) *Creating interactive eBooks: All about widgets*. (2014, November). Osaka Jogakuin Press. ebook. (Text for teachers). (Swenson, T., & Bramley, D.)

II. 学術論文

- (1) Making interactive e-books: More than just cutting and pasting. (2014). *Osaka Jogakuin College Research Journal*, 43, 19-36. (Swenson, T., Cornwell, S. & Bramley, D.)
- (2) Projection of tradition in Japanese export media: The feminization of Japaneseness. (2014). *Osaka Jogakuin University Research Journal*, 10, 17-30.

IV. 学会発表

- (1) Reactions to iPads & eBooks. (2014). Eurocall International Conference, University of Groningen, Groningen, Netherlands, August 21. (Bramley, D., Swenson, T, Cornwell, S., Visgatis, B., Tojo, K. & Teaman, B.)
- (2) Ready for digital: e-books & language learning. (2014). JALT Call Conference. Sugiyama Gakuen University, Nagoya, Japan, June 7. (Swenson, T., Bramley, D. & Cornwell, S.)
- (3) Reactions to iPads & eBooks: Construction of a survey. (2014). Temple University Applied Linguistics Colloquium, Temple University Japan, Osaka Center, Osaka, Japan. February 9. (Swenson, T., Bramley, D., Teaman, B., Cornwell, S., & Tojo, K.)
- (4) Making the change: Going from paper to eBooks. (2013). The 38th JALT International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exposition, Kobe, Japan, October 27. (T. Swenson, D. Bramley, S. Cornwell)
- (5) Reacting to iPads & eBooks: One year in. The 38th JALT International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exposition, Kobe, Japan, October 26. (T. Swenson, D. Bramley, S. Cornwell)

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) Creating interactive ebooks using iBooks Author. (2014). Invited speakers. Apple Store Shinsaibashi, Osaka, April 6. (Swenson, T., Bramley, D., Teaman, B., & Kato, E.)

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) Japan Association for Language Teaching, JALT Journal, Editorial Advisory Board, January 1, 2014 to December 31, 2014
- (2) Japan Association for Language Teaching, JALT Conference Proceedings, Editorial Advisory Board, January 1, 2014 to May 1, 2014
- (3) JALT Teacher Education & Development SIG (TEDsig), Publications Chair, January 1, 2014 to June 1, 2014

Teaman, Brian (ティーマン・ブライアン) [Computer Assisted Language Learning, Phonetics, Pronunciation]

IV. 学会発表

- (1) "Essentials of haptic (kinaesthetic+tactile)-integrated pronunciation instruction" TESOL, Portland, OR. March 27, 2014.
- (2) "Speak fast; speak easy: The Fight Club technique" TESOL, Portland, OR. March 27, 2014.
- (3) "iBook Development for the Language Classroom" JALT CALL, Nagoya, June 7, 2014.
- (4) "Tablet Power in the Language Classroom with iPads" JALT CALL, Nagoya, June 7, 2014.
- (5) Reactions to iPads & eBooks. (2014). Eurocall International Conference, University of Groningen, Groningen, Netherlands, August 21.
- (6) Reactions to iPads & eBooks: Construction of a survey. (2014). Temple University Applied Linguistics Colloquium, Temple University Japan, Osaka Center, Osaka, Japan. February 9.
- (7) Better Rhythm in English through Movement and Touch. Friday June 27th 2014 at Aichi Shukutoku University.

寺岡 国一 (てらおか・くにかず) [企業組織運営全般・特にマーケティング,アントレプレナーシップ]

III. その他の著作 (研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「診断薬／装置の薬事対応と開発戦略」, 2014年12月技術情報協会発刊図書, 共著, 業界専門誌

東條 加寿子 (とうじょう・かずこ) [英語教育, ESP, コーパス言語学]

II. 学術論文

- (1) Linguistic dimensions of hint expressions in science and engineering research presentations. *JACET Selected Papers, Vol. 1*, 131-163, 2014. Primary author.

III. その他の著作 (研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「グローバル化の中の言語—その淘汰と進化—」『大阪女学院大学国際共生研究所通信』第8号. 2014年10月31日. 単著
- (2) 「MOOCという新種の「学び」が拓くもの」『大阪女学院大学教員養成センター NEWSLETTER 第12号』2014年7月. 単著

IV. 学会発表

- (1) Formality and politeness markers in English and Japanese corpora of scientific lectures and presentations. AILA World Congress, Brisbane, Australia, August 14, 2014.
- (2) Fostering content and language integration with an online corpus of science and engineering lectures. AILA World Congress, Brisbane, Australia, August 14, 2014.

V. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) Write Like a Chemist: How Genre Analysis Works. 大阪女学院大学学内研究会. 2014年2月12日.

VI. 科学研究費補助金等の公的研究補助を受けた研究

- (1) 「英語を介した理工系高等教育の向上を支援するシステムの開発」 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究分担者 2012年度～2014年度.

